

TOURING REPORT SPECIAL

2003 Moto Harbour World Touring in Australia



広大な大地を駆けめぐる 感動大陸オーストラリアの旅

バイクに乗り始めてもう20年が経とうとしている。最近、ツーリングにも出掛けていない。正直なところ、初めてバイクに乗ったときの感動はすでに薄れ始めていた。そんな時、とあるバイクショップからツーリングのお誘い。「オーストラリアに行かない？」

●真夏のオーストラリアに降り立つ

1月26日、僕は機上の人となっていた。飛行機に乗るのはかれこれ14年ぶりのこと。少々緊張している。周りを見渡すと、機内には今回のツアー参加者の面々がいる。皆、期待に満ちた顔をしている。それもそのはず、ライダー憧れの地、オーストラリアに向かっているのだから。

今回のオーストラリアツーリングを企画したのは愛知県江南市のバイクショップ、モトハーバー鶴見さん。ツーリングや試乗会など数多くのイベントを企画してきた同店だが、海外ツーリングまで行ってしまうとはなかなかスケールがでかい。参加者は同店スタッフおよび、そのお客さん。男性11名、女性5名の計16名。7泊8日オーストラリアツアーの始まりだ。

名古屋空港を出発し、途中シンガポールで乗り継ぎ、飛行機に揺られること14時間。僕たちはオーストラリア、メルボルン空港に到着した。

生まれて初めてオーストラリアの大地に降り立った僕。その第一印象は、とにかく暑い。南半球に位置するオーストラリアは今、夏真っ盛り。気温はゆうに30℃を超える。ただし日本の夏とは違って蒸し暑い感じはなく、過ごしやすい。

初日はメルボルン郊外のヤラバレーでワイナリーツアーを楽しむ。長旅で疲れた身体を癒す目的もあり、のんびりと1日を過ごした。

●旅の相棒はNX650・ドミネーターに決定！

今回のオーストラリアツアーはメルボルン市内の長期滞在型のアパートメントホテルを拠点に周辺各地を回ろうというもの。荷物をホテルに置いて

たまま、身一つで思う存分オーストラリアを走ってしまおうという計画だ。

翌28日、僕たちはさっそくバイクを借りるためにメルボルン市内にある「gamers」というバイクレンタルショップへと向かった。

ハーレーロードキング、ドゥカティM900、BMW R1100RT、ZX-6R、TRX850、バルカン1500、GSF1200、トライアンフTT……etc。このgamersにはビッグバイクから250ccまで様々なバイクが用意されている。

これから3日間、オーストラリアを走る相棒選びだ。慎重に選ばなくてはならない。このショップにはビッグバイクだけでなくXV250ピラーゴやSL230など、小排気量モデルも用意されている。普段XRバハに乗っている僕としては、これでもいいかなと思ったが、他の参加者から止められた。高速クルージングの続くオーストラリアツーリングはビッグバイクじゃないと疲れるという。あれこれ思案した結果、NX650を借りることにした。650cc単気筒のランドスポーツモデルである。ちなみにお値段は3日間で4万円弱。足が着かないのが少々不安だったが、走り出せば問題はなさそう。

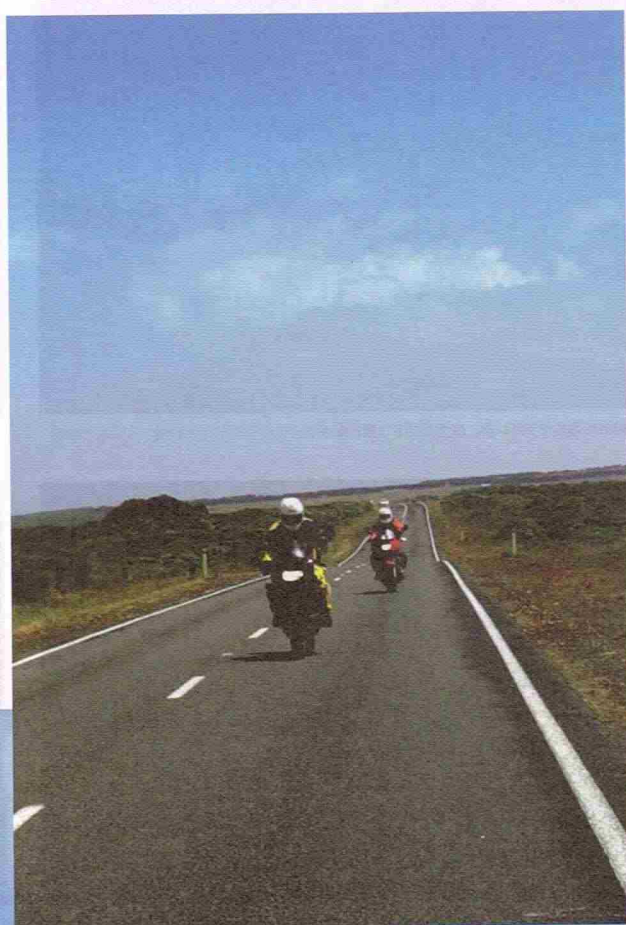
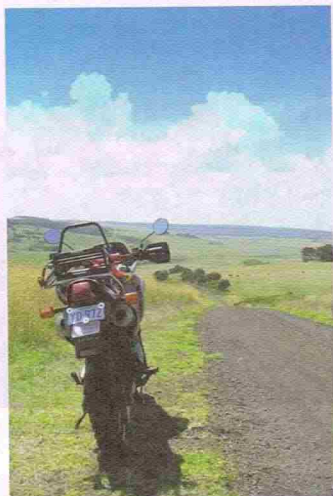
手続きを済ませた僕たちはさっそく走り始めた。レンタルショップのオーナーが笑顔で何かを言って見送ってくれたが、何を言ったのかはわからない。ちなみに僕は英語がわからない。こんなことでこの先大丈夫なんだろうか？

●戸惑いと不安と自由

オーストラリアは日本と同様左側通行。したがって、現地の交通事情に戸惑うことも少ない。



ia

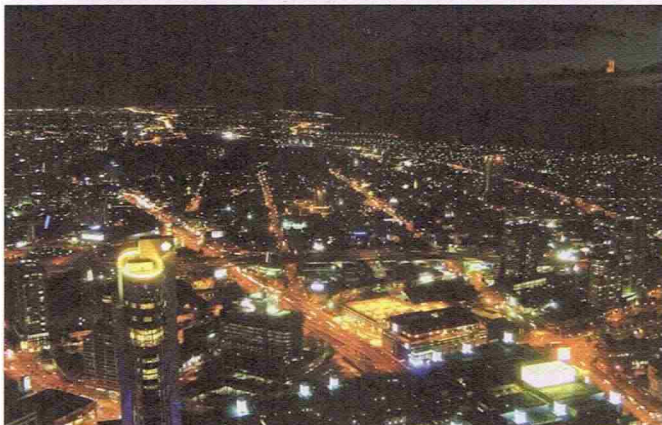




メルボルン郊外にあるヤラバレー。広大なブドウ畑が広がる



メルボルンは伝統的な古い建物がうまく近代的建物と調和されているのが特徴。写真は同市のシンボルともいえるフリンダーストリート駅



南半球一の高さを誇るリアルトタワーからの夜景。高さ253メートルからの眺望は美しい一言



今回バイクを借りたレンタルショップgarners。表に並んでいるのは、み〜んなレンタルバイク。4メーカーはもちろん、ハーレー、ドゥカまで用意されている

しかし、異なる点もいくつかある。僕がまず戸惑ったのは信号。右折信号が独立しており、まず右折が青になり、右折信号が赤になったあとに直進、左折信号が青になるのだ。つまり直進が終わってから右折が始まる日本とは逆である。また、ラウンドアバウトと呼ばれるロータリーにも戸惑った。交差点の中心が円形の島になっており、車はその島の周りを時計回りに進行する。

この日はペンギンパレードで有名なフィリップアイランドへ向かう。しかし初日ということもあって、最初は交通ルールに慣れるのに精一杯だったというのが、正直なところだ。市街地は信号も多く、さすがに緊張してしまった。そんな市街地を抜けて一行はハイウェイへ。制限速度は100km、快適なクルージングが始まった。

ちなみにこのモトハーバーツーリングは基本的に団体行動をしない。みんなが好きなペースで自由に走ることがモットーだという。確かに同じライダーといっても走りのスタイルはそれぞれ違うし、ふと立ち寄りてみたいと思う場所も違うだろう。こんなスタイルの方がみんな参加しやすく、

そして楽しいのかもしれない。

僕も市街地だけは他の参加者に先導してもらったが、途中からは1人で走った。渡されたのは簡単な地図が1枚だけ……。初めて訪れたこのオーストラリアで不安がなかったといえは嘘になるだろうが、なんだかとても自由な気分が味わえた。頭上には眩しいほどに青い空が広がっていた。

●憧れのグレートオーシャンロードへ

翌日はメルボルン近郊のダンデンノン丘陵でワインディングを楽しんだ。そして最終日、このツアーのメインイベント、グレートオーシャンロードへの旅を迎えた。

グレートオーシャンロードは世界で最も美しいドライブウェイと呼ばれるオーストラリア南部を走る約200kmの海岸線の道。オーストラリア大陸が、ほぼ垂直に海へ落ち込んでいる景観が楽しめる。「12人の使徒 (12 Apostles)」をはじめとする奇岩群はまさに自然が創り出した造形美だ。

メルボルンからグレートオーシャンロードまで

約300km。海岸沿いのワインディングを走るため時間はかかる。午前中に到着してゆっくりと景観を楽しみたいと思った僕は、万全を期すため午前2時にホテルを出た。

夜空を見上げると星が見えない。昨日まで好天が続いていたのだが、少々心配な空模様だ。日中の喧噪とは違って変わって閑散とした市街地を走り抜け、僕はハイウェイへ入る。ハイウェイを100km/h巡航で走り続けること1時間あまり、やがて海岸沿いへと向かう道へ入っていく。その頃心配していた雨がポツリポツリと降り出した。

少々の雨なら大丈夫だろう。しばらくすれば止むかもしれない……。そんな楽観的な考えで、しばらくバイクを走らせていたが、雨はいっこうに止む気配を見せない。それどころか徐々に雨足は強くなってきた。仕方なくバイクを止めて僕はカッパを着た。

灯りつないオーストラリアの田舎道を僕は一人走った。雨はなおも降り続け、路面状況も悪い。しかし不思議と気分は萎えない。これから目の当たりにするであろう雄大な景観への期待が、



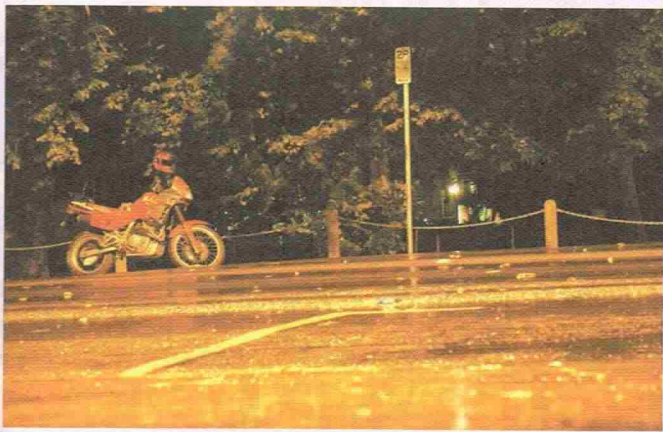
オーストラリア初日はワイナリーツアーを楽しむ。美味しいワインに皆満足？



garnersの人たちと記念写真。店長はちょっと元阪神のランディ・パースに似てました



バイクを借りて、まず立ち寄ったのがこの射撃場。インストラクターの爺さんは何でも元オリンピックの選手だったとか



グレートオーシャンロードへ向かう途中、雨が降り出す。時間は午前4時



途中、木の下で雨宿り。木の下といっても葉っぱの下じゃなく、枝（根？）の下です



グレートオーシャンロードの奇岩をバックに記念撮影。みんながヘルメットを被っているのは雨が降っているからなんです



先ほどまでの雨が嘘かのように晴れ渡ったグレートオーシャンロード。コバルトブルーの海が印象的だった

僕の不安をうち消してくれていた。

しばらく走っていると、波の音が暗闇からかすかに聞こえてきた。海が近いようだ。やがて空が明るくなり始めた。僕はようやくグレートオーシャンロードの入口に入った。

このグレートオーシャンロードは海岸線の道といっても、途中で丘陵地帯を縦貫するアップダウンのある長いストレートがあったり、そうかと思えば爽快なワインディングが続くなど変化に富んだ道である。

降り続く雨の中、僕はグレートオーシャンロードを走り続けた。大陸がそのまま海に落ち込んだような断崖、雄大な海、羊や牛たちがのんびりと戯れる牧草地帯……。次々と僕の目に映る景色はどれも新鮮で、そのスケールの大きさに圧倒され続けた。

ただ、欲を言えばこの雨空が恨めしい。よりによってこの一番大切な日がこんな天気になってしまうなんて。僕の日頃の行いが悪いのか……。

そんなことを思いながら僕は走り続け、やが

て展望台へとたどり着いた。しばらくすると他の参加者たちも次々と到着した。

展望台から眺める断崖、そして奇岩の数々。荒波と海風が長い年月を掛けて創り出したこの景観をどのように表現したらよいのだろう。TVや写真などで一度は見たことのある景色なのだが、やはり実際に見ると大違い。想像以上のスケールにしばし呆然とするほかにない。人の手では決して創り得ることのできない、自然の偉大な力をまざまざと見せつけられたような気がした。

しばらく展望台を散策した後、僕らはそれぞれ帰路についた。再びグレートオーシャンロードをメルボルンへ向かって走り始めた。ふと気が付くと、いつのまにか雨は上がり、見事な青空が広がり始めた。青空に吸い込まれていくような錯覚を覚えながらワインディングを駆け抜け僕はメルボルンへと向かった……。

午前2時から始まったグレートオーシャンへの道のりは今まで経験したことのない感動を僕に与えてくれた旅となった。しかし、僕がたどった道

程は、巨大なオーストラリアにとってほんの一部分に過ぎない。そのことを考えると、あらためてそのスケールの大きさを思い知らされる。

このオーストラリア大陸にはまだ他にも素晴らしい感動が隠されているに違いない。いつの日かそれをこの目で確かめてみたい……。



ダンデノン丘陵で飲酒検問された時のスナップ。僕が景色を見ながらフラフラ走っていたので、酔っぱらっているのかと思われたみたい



モトハーバー海外ツーリングについてのお問い合わせ



今回このオーストラリアツーリングを企画したバイクショップモトハーバーでは、2004年も海外ツーリングを予定しているとのこと。興味のある方は下記問い合わせ先まで。

モトハーバー 鶴見
愛知県江南市小折町桜雲180
TEL0587-54-3228